

令和7年度 府中市立府中第三中学校 経営報告

1 学校経営方針

府中第三中学校は、三地区の学校として保護者から「地域の中の学校」として愛されている。地域からの本校の教育に対する関心は高く、誇りに思い、期待をかけ、応援を惜しまない地域である。保護者・地域の期待に応えるべく、生徒の健やかな成長を目指して心豊かで将来に夢や希望を抱いてたくましく生きていく力を育てる。そのために、生徒が学ぶ喜びや励む楽しさを体得できる学校づくりを行う。

<教育目標>

「自他の敬愛」

- (1) 自分を大切にし、他人を尊敬し、楽しい学園を作ろう（生活）
- (2) よく運動し、衛生に注意し、健康な身体を作ろう（健康・安全）
- (3) よく勉強し、個性を伸ばし、役に立つ人になろう（学習）
- (4) 勤労をよこび、苦難にうち勝ち、正しく強く生きていこう（進路）

【目指す学校像】

人権の大切さを生徒に教え、教師は生徒の模範となる姿勢を示し生徒に寄り添った教育を行うことが大切である。人間としてのあるべき姿を教師は生徒に示し、誰に対しても人権を無視した態度をとることがないように教育に当たる必要がある。

また、時代に応じた指導の在り方を考え実践し、社会が生徒に求められていく力を身に付けることが教育の役目である。生徒の主体性を重視し自主的に物事を行おうという力を育む教育に当たることが大切である。そして協働して物事を解決する場面を作り取り組ませることを忘れてはならない。

- 1 生徒の心の居場所になれる学校（人間尊重の精神）
- 2 生徒が生き生きと主体的に考え学び自己決定により夢を実現できる学校
- 3 地域とともに歩み、地域から愛され、誇りに思える学校

次に学校評価アンケートと自校分析に基づいた報告を、□内に記載する。

【目指す教師像】

- 1 人権感覚に優れ、個々の人間性を意識し認め合える教員
- 2 生徒の多様性を理解し、生徒の良さや個性を伸ばすことができる職員
- 3 未来志向、プラス志向で考えられる教員
- 4 職員全員が気付き、高め合い協働して磨き合い課題解決する教職員集団
- 5 地域、保護者に情報発信を行い地域と共に歩み、地域と信頼関係を築く。
- 6 感性を研ぎ澄ます。そのためには教養を身に付ける。

- 7 教育の今後は、協働的な学習と個別最適化の指導方法の充実である。
- 8 教師は生徒、保護者にとって特別の存在であることをもっと意識する。
- 9 地域に住む中学生を教師としてどのように育むかを考える。

教員は ICT 端末更新を契機に、デジタル教材活用への意識が向上している。主幹会議を通じて若手教員指導の共有が進んでおり、令和8年度は拡大主任会議を週 1 回実施する合意を得ている。

一方で分掌主任と学年副主任候補を求め、計画的な人材育成を推進する必要があることや、授業観察後のフィードバックを速やかに行い、授業改善を推進することが必要である。

【令和 7 年度 学校スローガン】

「生徒と教師が人間として尊重し合える関係」

「生徒に協働的な学習に取り組ませ、生徒の個性と主体性を生かす」

2 学校運営の方針

「チーム三中」をスローガンに「和」を図りながら学校力を高める。同じ職場に巡り会った出会いを大切に、明るく楽しい、しかも意欲と活気に満ちた学校にしたい。互いの良さを認め高め合い、また弱点は温かく補い合って組織体の一員としての機能を十分に発揮できるようにする。教職員がガラス張りの環境づくりを心がけることで学び合える教師集団を目指す。些細なことと思われることでも、声を上げ共通理解・共通実践を心がける。

3 今年度の目標と方策

(1) 心の教育の推進

- ① 学校行事等の体験活動を通して心の成長を育む教育活動を展開する。
- ② 特別教室専門員とコーディネーターと連携を円滑に行い、幅広く生徒に対応する。
- ③ 学校やけやき教室、サポートルーム活用し不登校対応に取り組む。
- ④ 道徳教育を推進し生徒の道徳性と教師の道徳的実践意欲を高める。
- ⑤ SDGs の推進を行う。自分たちを見つめ互いに助け合い感謝しあえる気持ちを育む。
- ⑥ 多様性を受け入れるという視点に基づいた教育活動を展開する。

学校行事や学級活動、生徒会活動等を通して、仲間と協力して取り組む姿勢が育まれており、生徒・保護者・教員のいずれからも一定の肯定的評価が見られる。体験的な活動を通して、生徒が自己を見つめ、他者と関わりながら成長する機会を継続的に保障している。

また、特別支援教室専門員やコーディネーター、スクールカウンセラー等との連携により、生徒の困り感に応じた支援体制を整えている。けやき教室やサポートルームを活用した不登校支援についても、生徒が安心して相談できる環境づくりを進めている。

道徳の授業においては、「自分自身を見つめ直し、よりよい生き方について考える」学習が行われており、生徒・保護者双方から一定の成果が確認されている。加えて、SDGs の視点を教育活動に位置付け、互いを尊重し、助け合い、感謝する心を育む取組を進めている。多様性を受け入れる姿勢についても、日常の指導や学習活動を通して継続的に育成している。

(2) 健全育成の推進

- ① 授業を中心に「みそあじ」（身だしなみ、掃除、挨拶、時間）の4つの柱を励行し生徒の基本的な生活習慣を確立させる。
- ② ルールの意義について自発的に考えさせ集団生活でのルールの在り方を考えさせる。
- ③ 校内、校外で場に応じた挨拶ができる生徒を育成する。（挨拶運動の奨励）
- ④ 生徒の生活習慣を確立するため、担任、養護教諭、家庭で連携をとる。

授業を中心に、「みそあじ（身だしなみ・掃除・挨拶・時間）」を柱とした生活指導を行っており、チャイム前着席、整列しての移動、清掃への取組など、基本的な生活習慣について一定の定着が見られる。

ルールについては、単なる遵守にとどまらず、その意義を考えさせる指導を行い、集団生活における望ましい在り方を主体的に考える力の育成を図っている。校内外での挨拶についても、挨拶運動を通じて場に応じた行動ができる生徒の育成に取り組んでいる。

生徒の生活習慣の確立に向けては、担任・養護教諭・家庭が連携し、継続的な情報共有と支援を行っている。

(3) 確かな学力の推進

生きて働く「知識・技能」の習得を図り、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」や課題を見出し、解決する力を育て、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間力等」を涵養し、「生きる力」を育成する。

- ① 評価・評定についての進捗状況を授業、考査等で確認しながら精度を高める。
- ② 自学自習ノートを進捗させる。
- ③ 教科等でタブレット利用回数を増やし有効的に活用し学力向上を図る。
- ④ 学校全体でSDGsの取組を考えた教育活動を展開する。
- ⑤ 学習支援員、ICT支援員等と連携して授業でのタブレット活用を積極的に行う。
- ⑥ 生徒同士が意見交換を行う時間を確保し、協働的な学びから自分の学習を振り返り、深い学びにつながるよう授業を行う。
- ⑦ ユニバーサルデザイン化された授業で、授業を視覚化させねらいに迫る授業を行う。
- ⑧ 数学科、英語科での少人数指導を充実させ、個に応じた指導と協働的な学習を推進して自主的・自発的に学習に取り組める生徒を育成する。

授業を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力の育成を意識した指導を行っている。評価・評定については、授業や定期考査の結果を踏まえながら精度向上に努めている。

自学自習ノートの活用や家庭学習の定着に向けた指導を継続するとともに、タブレット端末を活用した学習を積極的に取り入れ、授業および家庭学習におけるICT活用が進んでいる。

また、学習支援員やICT支援員と連携し、協働的な学びの場を確保している。生徒同士が意見交換を行い、自らの学習を振り返る時間を設定することで、深い学びにつながる授業改善を進めている。

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や、数学科・英語科における少人数指導を通して、個に応じた指導の充実を図っている。家庭学習を計画的に進めたり、生徒会活動に参加・協力したりする姿勢を身に付けさせることが課題である。

(4) 体力向上の推進

- ① 体カテストの分析を行い保健体育科で本校の弱み克服のための手立てを考えた授業展開し、検証する。
- ② 昼休み、体育の時間、部活動等で体を動かすことの楽しさを味合わせる。
- ③ 部活動ガイドラインに沿ったクラブ活動を充実させることで体力の向上を図る。

体カテストの結果分析を基に、保健体育科を中心として課題に応じた授業改善に取り組んでいる。昼休みや体育の授業、部活動を通して、体を動かすことの楽しさを味わわせる機会を確保している。

部活動については、ガイドラインに沿った運営を行い、生徒が意欲的に活動できる環境を整えることで、体力および心身の健全な発達を支えている。

(5) 生徒の生活環境等の整備

- ① ユニバーサルデザインを意識し、生徒の学習意欲が高まる環境を整える。
- ② 言語環境を整備し互いが尊重できる人間関係を育む。
- ③ スクールカウンセラーを活用した教育相談活動を行う。
- ④ 特別支援教室、サポートルーム等を活用して個に応じた指導と支援を行う。
- ⑤ 生徒理解を深める体制を確立し、教職員のカウンセリングマインドを醸成する。
- ⑥ 校内委員会、特設委員会の中で、詳細に情報共有し、生徒理解を深める。

校内環境については、ユニバーサルデザインを意識した掲示や教室環境の工夫を行い、生徒の学習意欲が高まる環境整備を進めている。また、言語環境を整え、互いを尊重する人間関係づくりを重視している。

スクールカウンセラーの活用や、特別支援教室・サポートルームの運用を通して、個に応じた指導と支援を行っている。校内委員会や特設委員会において詳細な情報共有を行い、生徒理解を深める体制を整えるとともに、教職員のカウンセリングマインドの醸成に努めている。

(6) 地域連携を積極的に行い、地域に根ざした学校を目指す

- ① スクール・コミュニティの協力のもと、保護者、地域の連携を図る。
- ② 公開日では保護者、地域の方に教育活動への理解を深めてもらう。
- ③ 道徳授業地区公開講座では、生徒の道徳性の在り方について考える機会とする。
- ④ スマート連絡帳を有効に活用し、学校だより等をデジタル配信することで情報提供する。
- ⑤ 地域行事参加を家庭に周知し、生徒を積極的に参加させる。
- ⑥ 「心に届く一言運動」を小学校と連携し展開する。
- ⑦ 小学校との連携では校長や生活指導主任が定期的に連携を図り小中連携を円滑にする。
- ⑧ 児童・保護者の具体的で確かな情報授受を円滑なやり取りを確実に行う。

スクール・コミュニティの協力のもと、保護者や地域との連携を推進している。公開日や道徳授業地区公開講座を通して、教育活動への理解を深める機会を設けている。

スマート連絡帳を活用した学校だより等のデジタル配信により、情報発信の充実を図っている。また、地域行事への参加を家庭に周知し、生徒が積極的に地域と関わる機会を確保している。小学校との連携では、校長や生活指導主任が定期的に情報共有を行い、小中連携の円滑化を図っている。

一方で、保護者の多くが、家庭学習の態度や、学校の様子を知るための家庭内でのコミュニケーションに課題を感じているということが、学校評価アンケート結果からもうかがえるため、改善の策を講じる必要がある。

(7) 安全管理及び安全教育を推進する

- ① 三中危機管理マニュアルに基づき、危機未然防止管理の徹底を図る。
- ② 三中防災マニュアルを有効に運用する。
- ③ 毎月の避難訓練の実施と日頃からの危機意識と対応力を高める。

危機管理マニュアルおよび防災マニュアルに基づき、危機未然防止と安全管理の徹底を図っている。毎月の避難訓練を通して、生徒の防災意識と対応力の向上に取り組んでおり、生徒・保護者・教員からも一定の評価が得られている。

(8) ワークライフバランスに通じる教員の組織体制の充実

- ① 学校通信、学年だより、学級通信等をデジタル媒体で配布するようにする。
- ② 組織対応を行うことでサービス事故を起こさない
- ③ 支援員を活用し、教員の職務の効率化を図る。学校経営支援予算を有効に活用する。
- ④ ICTを活用して学校業務の内容を見直し校務改善につなげる。
- ⑤ 計画的に人材育成を行うことで組織が発展し形骸化しないようにする。
- ⑥ クラブ活動も地域人材を充て地域移行を推進する。

学校通信や学年・学級通信のデジタル配信を進め、校務の効率化を図っている。組織的な対応を徹底することで、サービス事故防止に努めている。

支援員の活用や ICT を用いた校務改善を進めるとともに、計画的な人材育成により、組織が形骸化しない体制づくりを行っている。クラブ(部)活動についても、地域人材の活用を視野に入れ、地域移行を進めている。

(9) 家庭・保護者との連携・協力

- ① 学校の透明性を図るために、できる限りの情報を保護者に公開し保護者と学校の関係についての信頼性を高める。

学校評価アンケートの結果からも、家庭と学校の情報共有や対話の重要性が確認されている。学校の透明性を高めるため、可能な限り情報を公開し、保護者との信頼関係の構築に努めている。

【総括】

本年度は、ICT 環境の更新を契機に、授業改善、校務の効率化、生徒支援の各領域で着実な前進が見られた。デジタル教材活用の定着、オンライン教材配信体制の整備、生徒指導に関する研鑽の深化、地域と連携した体験的活動の充実など、教育活動の質向上が学校全体で進展した点は高く評価できる。

一方、教室掲示の標準化、特別支援教育に関する理解促進、探究的学習の拡充、勤務時間の偏り是正など、改善を要する課題も依然として残されている。加えて、文書表記の適正化や服務事故防止、個人情報管理に関する継続的な確認を行うなど、学校としての基盤整備が教職員の不断の努力により支えられたことも重要な成果である。

これまで以上に分掌再編による組織機能の強化を通して、学校運営は一層安定することができる。教職員一人ひとりが生徒の成長を第一に考え、困難に対しても組織として乗り越えようとする姿勢は、本校最大の強みである。

令和8年度に向けては、これまでの実践をさらに深化させるとともに、残された課題に対して計画的かつ着実な改善を図り、すべての生徒が安心して学び、確かな学力と豊かな人間性を育む学校づくりを推進する。保護者・地域の期待に応えるべく、不断の改革と組織力の向上に引き続き、教職員が一丸となって取り組んでいく。